

第57回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：令和6年11月28日（木） 10:00～12:00
2. 開催場所：ハイブリッド（関西電力株式会社本店40階403会議室及びWebex）
3. 出席者：河村・藤原（電中研）、長瀬（日立GE）、杉野（日本原電）、高木・柴崎（東芝ESS）、伊藤（日立）、阿部（東北大学）、室屋（大阪大学）、山下（東京大学）、大橋（オルガノ）、西村（荘田代理）・前田（三菱重工）、平（東電）、端（JAEA）【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録確認

コメント等は無く、承認された。

(2) 今後の定例研究会について

前田委員より、今後の定例研究会の予定について説明があり、基調テーマ等について審議した。次回（第50回）の定例研究会では講演後に端委員を中心に若手部会によるパネルディスカッションを行う方向で検討することとなった。次々回（第51回）は6月頃に開催することとし、BWRプラント再稼働の内容を軸に、電力会社とメーカーから話題提供いただく方向で検討を進めることとなった。現地開催とする場合、各社の参加を促せるよう、開催日、場所、テーマが決まった段階で、早めに部会員に周知することとした。また、今後は主要な会議（定例研究会、NPC等）の計画について、ホームページの分かり易いところに掲示する方向で検討することとした。前田委員にて素案を作成し、平委員から開催候補地の関係機関の内諾を得たうえで、実施する。

定例研究会の開催方法については、極力対面開催に戻すこととする。幹事会社の方で十分な会議室を用意できない場合はハイブリッドも取り入れるが、現地参加希望者が多い時には、若手・学生を優先させることとする。貸会議室利用に対する予算使用も緩和される見通しである。

(3) 2025年秋の企画セッションについて

前田委員より、2025年秋及び今後の年会・大会の企画セッションのテーマについて説明があり、HWC技術レポートの標準化に係るテーマ等について審議した。2025年秋に照準を合わせることはせず、2026年春を見据えて継続議論することになった。

(4) 2024 年度部会報について

藤原委員より、ホームページや広報に係る報告があり、水化学部会報の構成について審議した。特別寄稿の記事の追加について、12月に開催予定の事故耐性燃料ワークショップについて検討することとし、長瀬副部長が一部を執筆するとともに、端委員からワークショップ主催者に寄稿を依頼することになった。また、AWC2024 報告については高木顧問を中心に執筆することになった。

(5) 2025 年度サマーセミナーについて

柴崎委員より、2025 年度水化学サマーセミナーの準備状況の報告があり、プログラムの内容について審議した。セッションのテーマとして、再稼働時の水化学、新型炉、部会活性化等を考えることとし、具体的な構成についてはワーキンググループを中心に検討を継続することとなった。部会活性化について 3 月の定例研究会における若手のパネルディスカッションとのリンクも念頭に検討する。

(6) 2024 年度部会賞について

端委員より、部会賞選考委員内での部会賞の募集・選考状況について報告があった。

(7) 「1F 廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会活動報告

高木顧問より、二期目の技術報告作成作業に取り掛かっている旨が伝えられるとともに、三期目の立ち上げや活動内容に向けて検討中との報告があった。

(8) 次期運営小委選挙について

端委員より、次期運営小委員会委員選挙のため、選挙管理小委員会の立ち上げについて発議があり、承認された。また、選挙管理小委員会委員長として和田陽一氏（日立製作所）の推挙があり、選任された。

(9) 新規 WG の設立について

河村部長より、部会の持続可能な活動方針の検討や NPC2029 に向けた体制作りを進めるための新規のワーキンググループの設置に係る提案があり、承認された。産学官の連携強化の進め方やアウトプットの定め方について議論が

あった。過去の将来構想ワーキンググループの活動も参照しつつ、検討を進めることになった。

(10) 部会等運営委員会からの作業依頼

平委員より、部会等運営委員会において、各部会における国際会議開催に係るノウハウを学会全体で共有する仕組み作りについての提案があったこと、輸出規制に係る学会としてのルール作りについて学会で検討する旨の議論があったことの報告があった。意見があれば別途平委員を通して部会等運営委員会に連絡することになった。

(11) その他

高木顧問より、AWC2024 のプログラム等の状況の紹介があった。

以 上